

広い!! 綺麗!! 高川学園

男子校から男女共学、そして中学校の開校と、多くの変遷をたどってきた「学校法人 山口高川学園」。令和元年8月現在の生徒数は、中学校341名、高校709名、計1050名である。
充実の施設、複数配置の保健室経営、スポーツ推進校での養護教諭の思いなど、私学での取り組みの魅力に迫る!

芝生の青さに目を奪われた

8月28日、この日は朝から雨。10時から高川学園の保健室訪問ということで、まずは山陽本線大道駅を目指した。国道2号線を小郡方面に向かう途中、遠方に立派な建物が見えてきた。校舎に近づくと、まず目に飛び込んできたのは人工芝のグラウンド。練習をしているサッカー部の横を通り過ぎ、玄関を目指す。広い敷地ゆえに、迷ってしまった…。10時前、同じく迷っていたホームページ編集委員のB先生と合流し、いざ保健室へ。

複数配置の保健室

保健室には、女子生徒が4名。養護教諭お二人が対応されていた。生徒たちはこちらに気付き、「あつ、失礼しました! どげんぞ!」と明るい笑顔で用事を早めに切り上げてくれた。

ホームページ編集委員A(以下A)

「先生方、初めまして。今日はよろしくお願います。」

N先生(以下N)

「初めまして。雨の中来てくださってすみませんね〜!」

ホームページ編集委員B(以下B)

「今の子たちは大丈夫ですか?」

N「彼女たちはね、就職組と呼んでいる3年生で、〇〇先生と連絡が取れんって来たんですよ。迷える子羊ってやつね。ハハハ」
そう明るく答えてくださったのは、勤務13年目のN先生。

F先生(以下F)

「朝からすみませんね〜!」

勤務11年目のF先生も笑顔でおっしゃった。

高川学園は、大きく分けて教室棟と事務棟に分かれており、保健室は事務棟に属している。生徒が過ごす教室棟とは離れた場所にあるため、かえって落ち着いた空間で休むことができるようだ。



THE・阿吽の呼吸。

勤務10年以上のN先生とF先生。高川学園での歴史を振り返り、女子の部活が増えたことで女子生徒も増え、それに伴って女性教員も増えてきたとしみじみと語られた。時代の変化を柔軟に受け入れ、生徒を暖かく包み込む保健室で働く2人の仕事観に迫った。



保健室のルールをみんなで守る

- B「保健室利用の決まりはありますか？」
F「原則1時間の利用など、ルールは4月の保健便りで周知しています。」
A「利用で困ったことはありますか？ずっと居座るとか・・・。」
N「それがね、ないのよ。高校は単位があるから、1時間休んだらケロツとした顔で帰る子が多いかな。」
B「中学生と高校生が一緒になることもありませんか？」
F「はい。部活動も一緒にしている生徒が多いから、進学したての生徒は、先輩が優しく教える場面も見られますね。1時間しか使えんぞ、つてね。」
N「男子校からの名残があるのか、昔は保健室の番人みたいな人もいてね。その生徒が後輩のお世話もしてくれてたなあ。」

複数で働く2人

- A「先生方は、仕事の分担とか決めていますか？」
N「仕事の分担は特に決めていなくて、その時その時でお互いのできることをやるって感じかなあ。」
F「N先生が産休に入った時は、一人の時代もあつたのよ。」
B「そうなんですか！」
F「その時に、保健室統計業務システムのソフトが導入されて、事務効率は格段に上がりましたね。」
A「来室が多いと保健日誌の作成や統計処理も大変ですよ。複数配置で上手く連携していくための秘訣などありますか？」
N「やっぱり、コミュニケーションかな。」
F「言いにくいことも言うし、隠し事はないかなあ。」

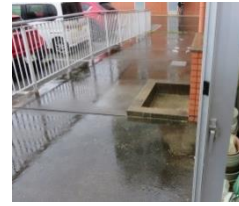
相性バッチリのお二人は、お互いのことをよく知った上で、阿吽の呼吸で役割を決めているように感じた。そんな二人の癒やしは、沢山のぬいぐるみ。修学旅行などに行った生徒のお土産のようで、それらは部屋を華やかに、そして優しく来室者を迎えてくれている。

ネット社会を生きる生徒に対して

高校生の場合、スマートフォンは朝のホームルームで担任が回収して、左の写真のかばんの中に保管する。かばんは一斉に職員室のロッカーに保管するそうだ。そして、放課後に担任から返却するルールになっている。SNSでの誹謗中傷や、写真などの流出でのトラブルを防止するためである。生徒はルールを素直に受け止め、勉強や部活に勤しんでいる。



保健室レイアウト



校舎外側



書類棚



応急処置コーナー



廊下側



出入口



出入口

生徒の笑顔を守りたい

スポーツ推進校ならではの設備体制と、養護教諭としての想いを紹介する。

ケガで選手生命を絶った生徒を目の当たりにして

A「先生方が高川学園の養護教諭として大切にしていることはありますか？」

N「やっぱり、生徒のケガ防止、そして迅速な応急処置ができるように意識しているかな。」

F「高校生となるとケガの重症度が増すじゃない？ 過去に、部活の練習中にケガをした生徒がいて、応急処置はしたけれども、結局その子、その後プレイできなくなったのね。その時の生徒の顔がなんともいえない憔悴した顔で…。今でも思い出すのよ。」

製氷機にかける想い

B「災害報告も多いですか？」

N「毎月20件くらいはあって、手術などが重なると1回で100万円を超えるケースもありますね。」

A「そんなに?!」

F「どうしてもケガはしてしまうこともある。それでも私は、ケガ人を出しちゃダメ、ケガをしても復帰できるようにって、製氷機も置いてもらったのよね。(右下の写真の製氷機は、卒業記念品として保健室に寄贈されたもの)」

N「寮監先生(※1)がトレーナーをしたりもするのよ。」

B「緊急時に養護教諭がグラウンドに駆けつけることもありますか？」

N「それがね、その場にいる人たちがすぐに対応するから、私たちは119番の後に駆けつけることが多いのよ。」

A「全員で生徒を守る環境が整っているわけですね。」

※1…寮の管理人



体育館には立派な製氷機がある。
打撲や捻挫など、アイシングが必要なときはすぐに対応できる。



AEDは、グラウンドに近い体育館にある。養護教諭以外でも取り扱いができるように研修も積んでいるそうだ。

グラウンドでケガがあった場合、運動部室棟に内線があるので、そこから保健室に内線がかかるようになっている。(詳しい流れは資料①を参考)



